

Title	元末の群雄とベトナム：陳友諒・朱元璋に関する大越史記全書の記事
Sub Title	Relations between China and Vietnam during the late years of the Yuan (元) period
Author	和田, 博徳(Wada, Hironori)
Publisher	三田史学会
Publication year	1978
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.49, No.1 (1978. 7) ,p.44- 44
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	研究余滴
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19780700-0044

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

元末の群雄とベトナム

——陳友諒・朱元璋に関する大越史記全書の記事——

和田 博 徳

最近刊行された L. C. Goodrich, ed., Dictionary of Ming Biography (明代名人伝), Columbia University Press, 1976. は元末に朱元璋 (明の太祖) と覇を争った陳友諒の伝記を載せているが (同書一八五—一八八頁)、その中で特に岩村成允『安南通史』一一八頁に見える「陳友諒は陳益稷の子なり。」という記事を驚くべき奇怪な説として紹介し、その信じ難いことを述べている。陳益稷はベトナム陳朝の聖宗皇帝 (在位1258—78) の弟で、元の世祖のベトナム遠征に際して降服し、至元二十三年 (1286) に元朝から安南国王に封ぜられたベトナムの皇族であり、一方、陳友諒は明史などの中国史料に「中国湖北省の沔陽の漁家の子なり。」と明記されているので、陳友諒が陳益稷の子であるというのは確かに驚くべき奇怪な信じ難い説

である。

しかし、陳友諒が陳益稷の子であるというのは岩村氏の創説でなく、実はベトナムの正史である大越史記全書の紹豊十四年^{元至正十四年} (1354) 二月の条に、「元陳友諒起兵、遣使来乞和親。友諒、陳益稷子。」と見える記事に基づいていることを始めてここに指摘して置かなければならない。

正史の記事ならば、たとえ信じ難い説であっても、その事情を更によく考察する必要があると思う。それでは陳友諒が「安南国王」陳益稷の子であるという大越史記全書の奇怪な記事は、一体如何に解釈したらよいであろうか。この奇怪な記事は前掲の如く、陳友諒が兵を起すと、ベトナム陳朝へ遣使して和親を乞うたという文の直ぐ後に載せてある。従って、これは恐らく陳友諒が朱元璋らと覇を争うため、ベトナム陳朝との友好関係を結ぶ必要を感じ、同姓であることを利用して、陳朝皇族の陳益稷の子と詐称して遣使したことを示すものと見てよいであろう。陳益稷は元朝から安南国王に封ぜられた後もベトナムへ帰らない

「以下六八頁へ続く」